

第2回 世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設 事業運営委員会区民活動・交流部会及び文化・芸術部会			
開催日時	令和8年7月17日（金） 午後6時30分 ～午後8時30分		場所 世田谷サービス公社 本社
出席委員 （敬称略、五十音順）	委員	中間支援組織	尾崎委員、川島委員、菊地委員、松下委員
		区内活動団体	石山委員、河上委員、村井委員
		学生（若者）	酒井委員
		行政	伊藤委員、大谷委員
欠席委員	池田委員、望月委員		
事務局	市民活動推進課	榎本係長、杉藤	
	運営事業者	上遠野施設長、本田副施設長、福永栗本、佐藤、森下、安木、山下、松下	
議題	(1) 報告案件 ①開設までのスケジュール及び部会での主な議題について ②オープニングイベント実行委員会キックオフ開催及び企画委員会の報告 ③交流スペースレイアウト（相談カウンター）及び区民参加の家具作り ④R9年度市民活動フェア企画・検討状況 (2) 審議案件 ①オープニングイベントの企画（参画）検討、全体振付 ②利用憲章（案）検討・オープニングイベントでの課題解決テーマ設定の具体化 ③広場のマルシェに使用するシェード作成 (3) 次回の日程等		

(1) 報告案件

① 開設までのスケジュール及び部会での主な議題について【資料2-1】

本田副施設長から、区民利用・交流拠点施設開設までのスケジュール及び部会での主な議案について説明を行い、以下の通り全委員で認識を共有した。

1. 各委員会日程について、7月13日（月）第2回みどり部会が開催され、8月6日（木）第2回事業運営委員会が開催予定。
2. 第1回みどり部会の報告【資料2-2】

○開催日：5月15日（金）

○審議案件に対する委員からの主な意見：

- ・屋上庭園だけでなく、庁舎周辺のケヤキ並木や広場を含めた交流拠点施設全体として、緑を通じた活動のハブとなることを期待。

○意見交換から出た課題：

- ・区民参加によるワークショップ形式での植栽活動に対して、日常的な維持管理を誰が担うのか。
- ・屋上庭園の取り組みへ参加してもらうための周知方法が不明確である。

② オープニングイベント実行委員会の報告【資料3】

本田副施設長より、6月10日に実行委員会が発足されたことと、7月15日に第2回実行委員会を開催したことを報告。以下の事項が実行委員会にて提案及び決定された。

○実行委員からの主な意見・提案

- ・様々な人にきてもらうため、17時以降退勤した区の職員にも積極的に参加してもらいたい。
- ・繋がりを作るために、オープニングイベントのタイトルやキャッチコピーを作る。
- ・世田谷区での考案企画として、区民参加のマルシェのシェード作成と家具作りを提案。

○決定事項

- ・6月10日第1回実行委員会では、委員長をはじめとする企画委員の決定、情報共有ツールとしてSlackを導入することが決定。
- ・7月15日第2回実行委員全体会では、イベント名及びキャッチコピーが決定。

イベント名：「せたがや はじまりフェス」

キャッチコピー：「まちとの出会いが、ここからはじまる」

○イベントスケジュール調整について

企画委員を中心に事務局と協力して、世田谷区企画と参加団体の希望日時を調整。

③ 交流スペースレイアウト（相談カウンター）及び区民参加による家具作り

ア. 交流スペースレイアウト（市民活動相談カウンター）【資料4】

事業運営スタッフ及びマッチングコーディネーターが常駐する市民活動相談カウンターについて市民活動推進課榎本係長より説明した。

- ・2月準備会でレイアウト案を示した際、スタッフと単純に正対する形はあまり好ましくないとの意見を踏まえ、カーブをかけたカウンターに設計変更。隣同士でも会話ができるようなスタイルとする。

イ．区民参加の家具作りについて

官民連携担当課から民間事業者と連携し、広場等で使用する家具を区民参加で作る取組について伊藤委員より説明。

- ・広場に日常的に設置する椅子やテーブル、イベント時にマルシェ等で使用できる屋台などの家具を区民参加で制作。
- ・家具の材料については、区内から出る端材等を活用予定。
- ・家具を設置することで施設の魅力向上に繋がり、日常的に人が滞留する仕掛けを目指す。
- ・区民参加で家具を一緒に作ることは、交流拠点施設のコンセプトともマッチ。
- ・家具の設置にあたっては、庁舎としての安全管理や日常の運営方法等、様々な課題もあるため、関係所管と調整予定。

④R 9 年度市民活動フェア企画検討状況

本田副施設長より、来年度の市民活動フェアについて、交流拠点施設が未オープンのため、まず区と事業者で対応方針を検討し、その結果を部会に示して今後の検討課題とする旨を提案。提案内容について部会内です承された。

○伊藤委員による市民活動フェアに関する追加説明

- ・市民活動フェアは必ずしも年1回実施することが目的ではなく、施設運営をする中で改善が必要な時に旗印になるイベントを目標にし、ネットワークを広げていく際に活用可能なイベント。
- ・イベント開催規模や時期、ターゲット、開催目標もまだあえて決定していない柔軟な形としている。

○委員からの意見：

- ・フェアに人を呼ぶのは大変なため、広報にも力を入れる必要がある。
- ・フェスタとフェアの違いを理解してほしい。（フェスタ・フェス＝お祭り、フェア＝見本市）

●区民利用・交流拠点施設において目指す方向性について

第1回みどり部会にて委員より指摘があった、屋上庭園やオープニングイベントを検討するにあたり、交流拠点施設として何を目指していくのか、ビジョンについて伊藤委員より説明。

○区民利用・交流拠点施設が目指すビジョン

- ・区民利用・交流拠点施設は、市民団体、地域、区が小さな実践を通じて活動や課題等を可視化し、結果として外部に共有される実践拠点。
- ・施設に集まった人が自然に市民活動に接続していくための工夫の場でもあるため、区内の活動団体にとってもそのような施設となることを目指す。
- ・普段市民活動に関わっていない人にも市民活動に接続してもらえる場を目指す。
- ・活動団体のスタートアップ・バージョンアップ支援をする場所。

・オープニングイベントや集客イベントで集まった人々が様々な活動に触発され、活動を知ったり活動に参加する人が増えたり、活動が新たに始まったり、ネットワークが築けたりするような、活動の活性化を目指している。

(3) 審議案件

本田副施設長、マッチングコーディネーター福永氏から説明を行い、各審議案件について委員と意見交換を実施した。

審議①：オープニングイベントの企画（参画）検討、全体振付【資料6－1、6－2、6－3】

本田副施設長より、前回部会の振り返りを行い、委員より要望のあった施設見学はイベント期間中に随時実施する旨を説明。オープニングイベントは実行委員会を中心に準備を進めており、商店街や大学とも連携しながら区全体を盛り上げる施策を検討していることを踏まえ、意見交換を行った。

○委員からの意見・要望は以下の通り。

1. 意見

- ・汽水域はもっとたくさんの境目がある。区職員と区民・地域活動団体の接点も重要。17時以降にもイベントを組み、仕事を終えた職員も参加できるようにすると良い。
- ・実行委員会では、目的があると参加しにくい層もいるという意見を踏まえ、「つながる」というキーワードから「はじまり」に変更。
- ・イベント期間中、どこまで埋めたいのか、どのように人を集めていきたいかを示していただけると声がかかりやすい。
- ・手を挙げた50近くの団体の声をできる限り拾う。実行委員の団体と調整し、空いている日程に適切に配置する。全日程埋める必要はなく、効果的に見せることが大事。
- ・区主催のイベントに合流を希望する団体があるので、可能な限り調整して希望をかなえていく。区・事業者・実行委員企画委員の方から関連しそうな団体へ、合流可能性を示してあげて参加を促すべき。

2. 委員からの要望

- ・オープニングイベント期間中、施設を自由に見学できることを大きく広報すべき。
- ・施設見学時に使い方について話したい人もいるため、スタッフが対応できる時間帯を設けると良い。
- ・参加団体の希望内容を踏まえたスケジュールへの反映や調整について、さらにきめ細やかな対応を求める。

審議②：利用憲章（案）の検討・オープニングイベントでの課題解決テーマ設定の具体化【資料7－1、7－2、7－3】

マッチングコーディネーターディレクター福永より、利用憲章（案）について検討背景について改めて説明。

○検討背景：

- ・準備会では、施設の理念や方向性を憲章とすることが重要との意見があった。
- ・憲章は区民が区民に向けて作るもの。
- ・オープニングイベント期間中に来場者と一緒に検討し、フィナーレで発表する案も検討。

○委員からの主な意見及び提案は以下の通り。

1. 意見

- ・憲章を考えた人が示せると良い。多くの人の声や思いが集まって形になった憲章であることを示すことが大切。プロセスが重要。
- ・憲章で使用される言葉は、誰でも分かる言葉でなければいけない。
- ・交流拠点施設のスタート時点で、何も憲章が決まっていなかったことは反対。仮置きでも何かを置いておくべき。
- ・準備会での議論を踏まえた資料7-1をベースに、ブラッシュアップしていくべき。
- ・「憲章イメージ」「憲章たたき台」「憲章暫定版」などの仮称で11月を迎えるべき。
- ・コンセプトと憲章の整理が必要、コンセプトは今の時点で言葉にできるのではないかな。
- ・資料7-1の左側にある「運営にあたっての確認事項」はぶれない軸。憲章は、この場を使う人たちに向けて、わかりやすく表現するもの。
- ・憲章に「柔軟で流動的なもの」「施設の利用とともに育っていくもの」という記載があると、改定のハードルが低くなる。
- ・変わるタイミングをどうするか。トライアンドエラーの場合だが、軸がなくなってしまうように注意が必要。
- ・仮憲章という言い方にするか、もしくは憲章の中に見直し時期を入れるなど、暫定的なものにする方が現実的。
- ・委員長に憲章決定を一任する方法もある。また、憲章改訂について憲章の中に表現を入れることを部会の意見として運営委員会に上げる。
- ・注意事項にならないよう、全体を網羅する普遍的な括り方ができないか。
- ・準備会での議論が資料7-1の上部に記載されているため、その部分を憲章に入れ、憲章を決め打ちにしても良いのではないかな。
- ・原点を思い出すためにも、これまでやってきたことを汽水域含め書き留めておくべき。また、足を運ばない人の声を聞くことも重要。

（回答）汽水域の表現を入れるかどうかは議論が必要。意見の拾い方については、事務局内でも議論が進んでいる。

2. 提案

- ・「憲章」という言葉が固いため、よりキャッチーな表現に言い換えてはどうか。
- ・たたき台として、子ども向けの表現にしたものなど、複数案を並べるのも良い。
- ・チャレンジの場という表現が良い。スタートアップ支援をする場所であることを大きく入れてほしい。

・資料7-1左側の「運営にあたっての確認事項」は準備会でフィックスされたものであるため、これをベースに憲章案を議論すべき。

○決め方について：

意見

- ・オープニング期間中に3回程度ワークショップを開催し、壁に貼って積み上げていく。そして最後のワークショップで決める案はどうか。
- ・オープニングイベント前にワークショップを開催する方法もある(9月～10月)
- ・膝を突き合わせて話すことが重要。相談を受け止める仕組みや環境設計が必要。
- ・1年単位程度のスパンで見直す。
- ・意見を反映する範囲(利用者・非利用者)も検討が必要。

○オープニングイベントでの課題解決テーマ設定の具体化

オープニングイベント期間中に利用団体が特定の課題(例:ごみの処理、紙のデジタル化など)について試行的に取り組み、その結果やノウハウを事業者に報告し、施設・団体に周知・共有して活動方法を広げていく取り組みについて意見交換を行った。

○委員からの主な意見及び提案は以下の通り。

1. 意見：

- ・ごみは区で回収するが、無駄に出さないよう、分別や減量・減容の取り組みをこの施設でも見せることで波及効果が期待できる。
- ・ごみの持ち帰りは団体にとってハードルが高い。ごみを出さない方向のイベントという発想も生まれる。
- ・ごみの問題は課題が大きい。交流拠点施設スタートから半年間はごみに集中するの也不错。

2. 提案

- ・音、臭いの問題もある。同時に複数テーマは大変。まずはごみ・資源の分別以前の減量・減容で数ヶ月やってみてはどうか。
- ・地元企業に対して対策協力を要請するのはどうか。

審議③：広場のマルシェに使用するシェード作成検討【資料8-1、8-2】

広場のマルシェ開催時に使用するカラフルなシェードを区民参加で作成する提案を榎本係長より説明。

石山委員より、これまでのインクルーシブアート活動の経験をもとに、複数のシェード制作手法について提案。

○石山委員の提案内容

- ・フリースタイル版：自由にできるが、色が混ざって最終的に茶色か黒になることが多い
- ・色味を調整したフリースタイル版：季節によって色を絞る
- ・道具を工夫した版：子どもや身体的な配慮が必要な方も参加できるよう工夫
- ・色味限定の折染版：トーンをコントロールでき、作品として綺麗に仕上がる

- ・パッチワーク版：事務局側の工数が発生するが、力強い作品になる
- ・ステンシル版：準備が必要だが、誰でも参加しやすい
- ・運営側である程度制作の方向性を決めたいうえで、参加者を募る方がスムーズである。

○委員からの意見は以下の通り。

意見

・時間が許せばデザイン公募も検討できる。誰が選定するか、どの程度の時間をかけるか、事務局の考えを聞きたい。

（回答）できれば多くの人を巻き込みたい。公募だと一人の案になるため、多くの人に関わったと感じられる仕組みが良い。

・上から見るとデザインは見えにくい。モザイク状など、フリースタイル的な手法と相性が良い。いろんな人が関わることが重要で、自分が関わったものが使われることが愛着につながる。

・実際に広場でテントを使用する状況を見てから制作の取り組みをはじめても良い。

・学生単体での参加は難しいが、子どもなど様々な人と交流しながら作る場であれば参加しやすい。

○その他の意見

・資料は両面印刷にすべき。ごみの問題を議論している中で全て片面コピーは自己矛盾。次回は改善してほしい。

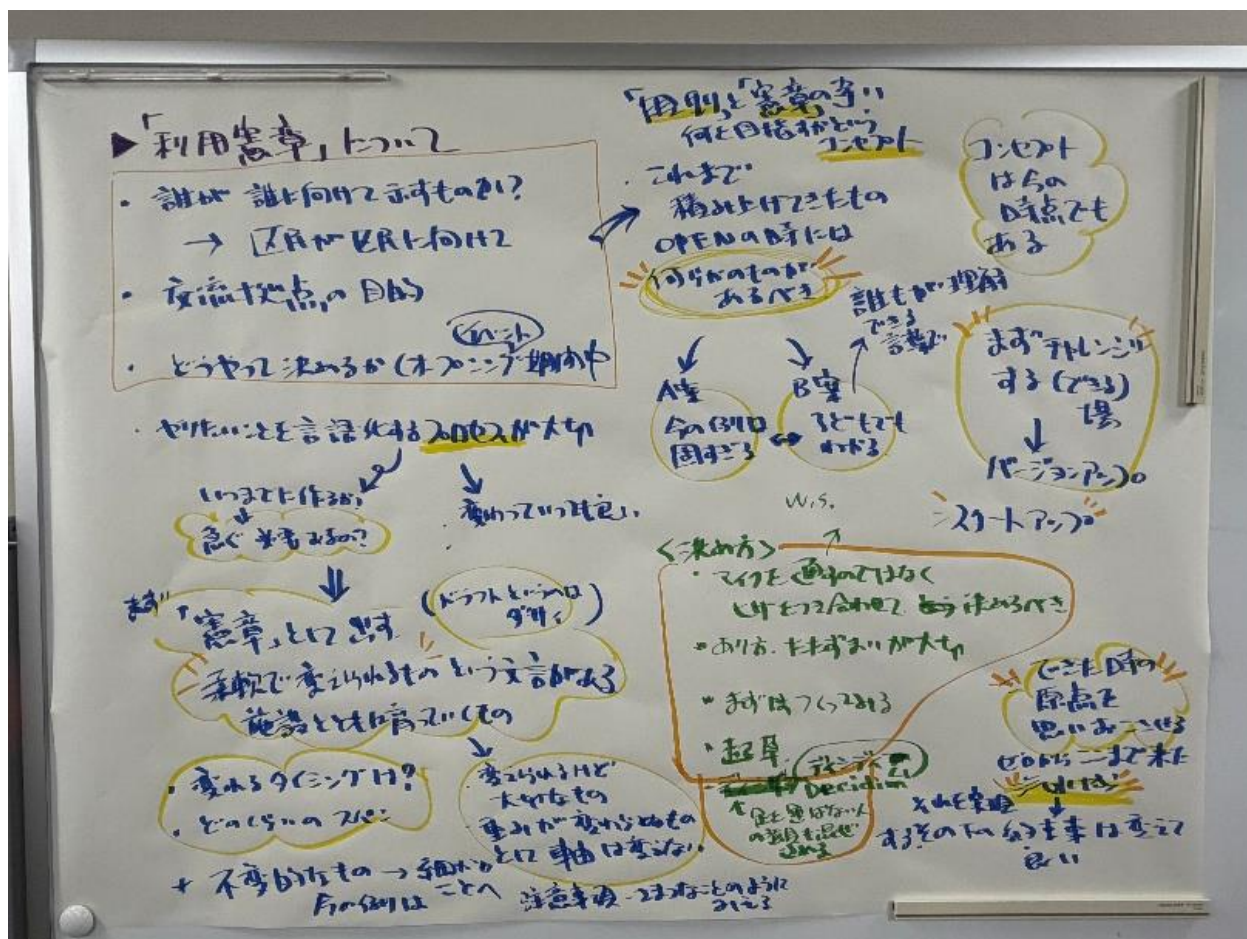
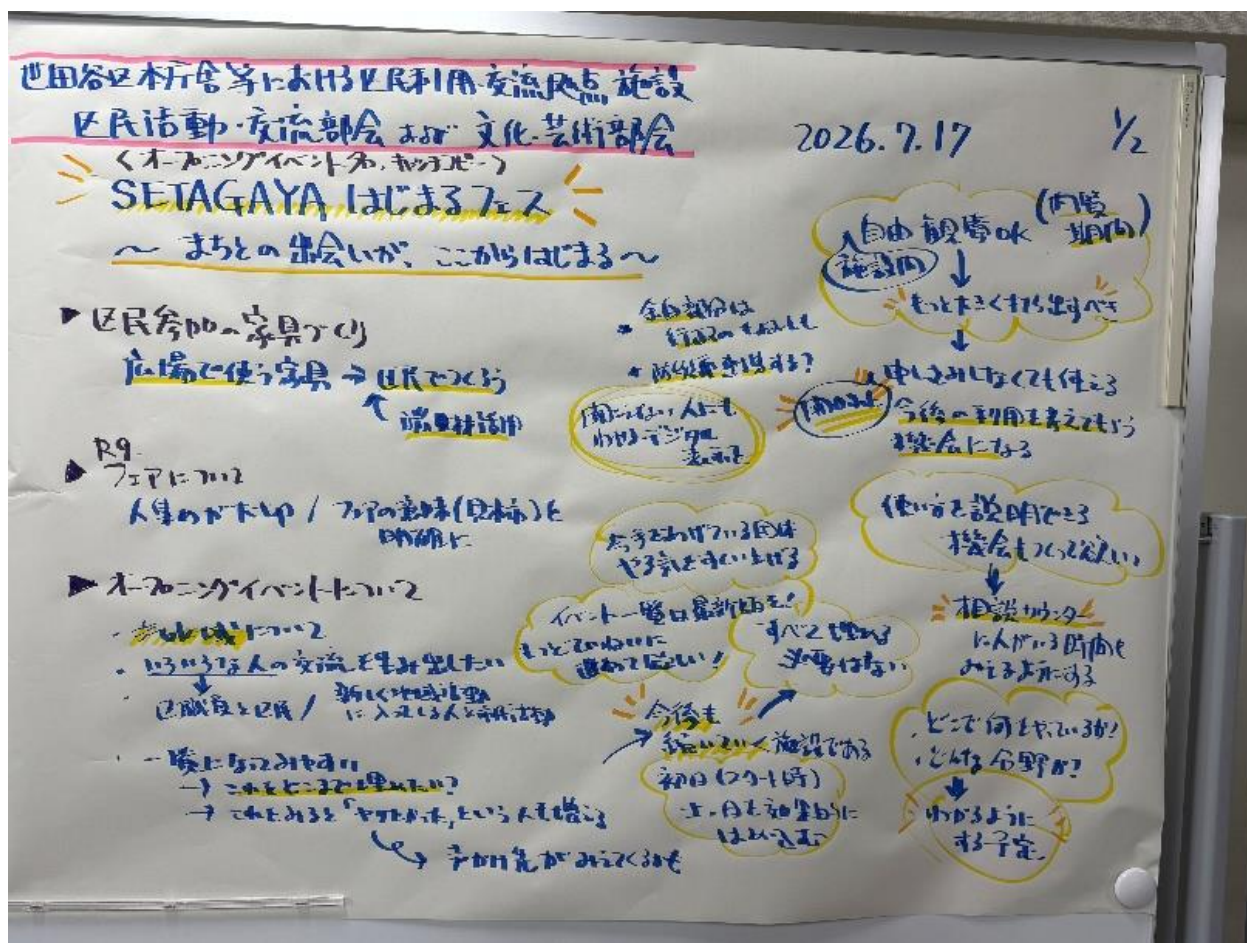
（回答）対応いたします。

・入口にデジタルサイネージで今日のイベントがわかる表示があると、聴覚障害者にも優しい。

（回答）デジタルサイネージは4ヶ所に設置予定。カームダウンスペースなど障害者への配慮も進めている。

●審議での決定事項・確認事項

1. R 9 年度市民活動フェアは、区と事業者で検討し、部会に報告する。
2. 施設見学は、オープニングイベント期間中随時実施する。
3. 利用憲章は、準備会での議論を踏まえた資料 7-1 をベースに、ブラッシュアップしてほしい。
4. 憲章内容は中学生でも理解できる標準内容と、子ども向けの 2 パターン作成してほしい。
5. 利用憲章には「変わり方」についての表現を入れることを部会の意見として運営委員会に上げる。
6. シェード作成は、多くの人に参加できる方法を検討し、運営委員会に報告する。
7. 第 3 回部会開催まで期間があるため、随時事務局から情報共有・確認等の連絡を行う。



イベント期中の共通課題

- ・ ジミの問題大きい → 買, たあ店(スパー)に直すという方法もある
- ・ ステップ 半期後は ジミ に集中しては?
- ・ 沢が 者 → 系, たあとのあしハッ
- ・ 飲食 にあい
 - ・ ここはマナーの世界
 - ・ 議論になり得るかも

広場のエリニエ シートについて

- ・ みんなでつくるシート(案)
- ・ 時間をかからぬなら公募はどうか?
- ・ 作業期間 → 11月に置いて、そっちでスタート
 - ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺
- ・ 一般大生も来るのか? → 子ども, いざなさんと交流してスパーを動かす